

新宮山彦ぐるーぷ第1869回

## 行仙宿小屋電灯増設と行仙岳北面までの点検巡視

◇実施日：平成28年4月23日(土) 晴後曇り

◇参加者：梶野照雄。

1名

24日(日)はお天気が崩れる予報が出ていたので、23日(土)の午前6時過ぎに家を出た。

R425から林道に入ると、いつも水流で深い溝が何本もできるカーブに重機が入り、きれいに整地されていた。9時過ぎに登山口到着、用意をして登り始める。モノレールのビニールカバーに雨水が溜まっている。外してみると運転席のシートにも水が溜まっていた。このままでは座れないので、何か拭くものが必要だ。10時前に小屋に到着、すぐに作業を始める。



重機で整地されていた



北側2灯、南側2灯



スイッチは東中央に移設

脚立の上って作業していると、単独の縦走者が通過、昨晩は平治宿で宿泊し、今晚は雨予報のため21世紀の森へ降りてテント泊するそうだ。

11時半に工事完了。発電機を動かして点灯してみる、スイッチは前回の工事で東中央に移設した。

お湯を沸かしてゆっくり昼食を摂る。食後、東側雨水槽の栓を付けてみるが、栓が落ちてしまうのを防ぐ突起が邪魔をして、少し隙間ができる。ヤスリで削って何とか入った。



一応、掃除する



何とか入った



枯れ枝で完全焼却

持ってきた電球の箱などを燃やそうと焼却炉へ行ってみると、燃え残りがどっさり溜まっていた。周りの枯れ枝を集めて完全焼却する。この間に軽装の北上者が一名通過した。

13時40分、小屋を離れて行仙岳に向かう。5分ほど登ったところに積んである丸太が崩れていたが、重いのでそのままにして通過。道に落ちている枯枝や、覆いかぶさった木を除けながら

トンネル東口からの分岐に到着。  
太い木が西側に倒れこんでいた。



小屋北のツツジ



少し崩れていた



細い木はノコで

倒木は西側の木に引っかかって止まっているので通行はできるが、30cmクラスの木で、ノコでは歯が立たない。チェーンソー隊の出動を要請したい。



行仙岳南(分岐)の倒木



行仙岳北の倒木処理状況



行仙岳を越えて北側へ降りていくと、ヒメシヤラなど数本の木が道を塞いでいた。枝が多く、切除に少し時間がかかった。行仙岳北面の捲き道分岐まで降りてきた。昨年直した石柱はしっかり直立していた。ゆすってみると若干のゆるみがある。北側の階段部分はあちこちで崩れていた。垂直に打ち込まれていたはずの杭が水平方向を向いている。杭の長さが不足しているようだ。



行仙岳北の石柱



崩れた階段



階段の写真を撮って捲き道経由で行仙小屋に戻る。捲き道は格段の変化はなかった。14時過ぎから急激に雲が増えて、小屋が見えた時には数滴の雨粒が落ちてきた。焼却炉と戸締りを確認後、急いで下山する。登山口到着まで何とか降らずに済んだ。

09:05 補給路登山口 09:15→09:58 行仙宿小屋 13:40→14:01 トンネル東口分岐→14:07 行仙岳→14:26 捲き道分岐(北側)→15:05 行仙宿小屋(捲き道経由) 15:10→15:45 補給路登山口

(記 梶野)